

だいぶ肌寒くなって参りました。風邪も少し流行っているそうです。どうぞ御互い体調に気をつけて過ごして参りましょう。

さて、体調のことといえれば私事で恐縮ですが大腸にポリープがあることが判明し9月29日切除手術を受けました。夏に受けた検査でたまたま発見してもらい、かなり大きいとの事らしく早めの切除となりました。手術当日は初めてのことでしたので不安で仕方ありませんでしたが、ここはお医者様を信用するしかないと思いながら指示通りに受けました。ポリープはS状結腸にあり肛門から内視鏡を入れての除去術でした。受けてみると麻酔をしていないため意識ははっきりしており頭上に設置してあります画面でその一部始終を確認することができました。確認するといってもそんな余裕はありません。緊張し不安の中で恐るおそる見ておりますとしばらくして画面に風邪をひいてのどに扁桃腺が腫れた時のような感じの赤く腫れあがったポリープが現れました。その後はワイヤーでポリープと腸の根元の繋ぎ目を切除し

クリップで3か所傷口を止めてくださいました。その処置の最中多少不快感はあるものの不思議と痛みはあまり感じませんでした。結局手術は15分程で終了しその後40分程点滴を受けましたがすんなり帰宅することができました。退院後1週間ほど生活面、特に食事に気を付けながら過ごした結果現在お陰様で通常の生活に戻っております。今振り返り今回の経験は私にとって大変貴重で有難い体験でした。気が付けば年齢も45歳を過ぎ中年期を迎え想像以上に体に変化している事実を知らされた思いがしました。また、科学医療の進歩も身をもって感じました。考えてみますと今の私の生活は科学の恩恵の中にあるといっても良いのではないかと思います。しかしその科学の恩恵の中、謂わば科学に依存した生活が考え方までも科学的になっていることに気づかず仏教を勘違いして聞いていた時期が私にもありました。仏教で苦しみのことを生老病死ともいいます。そういわれますとちょっと疑問に思いませんか？生老病死はその文字が現す通り、人

間として生まれたら年を取り病気にもなり最後は死んでゆくという私たちが生きているうえでの事実のことをいいますが、それがそのまま苦しみであるといわれますと何か疑問が起こってきませんか？実はその疑問は人間の知恵をもって解決していこうとするから生じます。仏教はその人間の知恵を離れ「仏の智慧」をもって生老病死を聞いてゆく宗教です。「仏の智慧」による生老病死とは「思い通りにならないこと」という意味を含んでおります。苦しみとは思い通りにならないことを思い通りにしたい私のころがかき乱しおこります。この何事も思い通りにしたい私こそ仏教で一番問題にする私の心の深い闇であり煩惱といえます。阿弥陀如来の世界は煩惱もなく広大無辺な清らかな世界でお浄土といえます。このお浄土の世界をあるのかないのか考えようとする頭を科学的考えといえます。お浄土があるのかないのかではなく、私のためにもたらされた真実であると領けたとき本当の生きる道が開かれて参ります。

南無阿弥陀仏